

2019年度 受験対策用

簿記 3 級

問題集



～目次～

第1章 現金・預金	p.2
問題1 現金過不足	問題2 当座借越
問題3 小口現金	
第2章 商品売買	p.3
問題4 商品の仕入れ（分記法）	問題5 商品の売上げ（分記法）
第3章 貸付金・借入金	p.4
問題6 貸付金と借入金	問題7 手形貸付金と手形借入金
第4章 固定資産	p.5
問題8 固定資産の購入	問題9 固定資産の減価償却
問題10 固定資産の売却	問題11 資本的支出と収益的支出
第5章 純資産	p.7
問題12 株式の発行	問題13 剰余金の配当と処分
第6章 税金	p.8
問題14 法人税等	問題15 消費税
第7章 貸倒れ	p.9
問題16 貸倒引当金	
第8章 経過勘定	p.10
問題17 経過勘定①	問題18 経過勘定②
第9章 その他の取引	p.11
問題19 受取商品券	問題20 差入保証金
問題21 貯蔵品	問題22 法定福利費
問題23 訂正仕訳	

第 10 章 帳簿	p.13
問題 24 仕訳帳と総勘定元帳	問題 25 小口現金出納帳①
問題 26 小口現金出納帳②	問題 27 仕入帳・売上帳
問題 28 買掛金元帳	問題 29 売掛金元帳
問題 30 受取手形記入帳	問題 31 支払手形記入帳
問題 32 商品有高帳①	問題 33 商品有高帳②
問題 34 仕入帳・売上帳・商品有高帳	問題 35 固定資産台帳
問題 36 補助簿の選択	

第 11 章 証ひょう	p.18
問題 37 証ひょう	

第 12 章 試算表	p.23
問題 38 合計試算表	問題 39 残高試算表
問題 40 合計残高試算表	問題 41 合計残高試算表と掛明細表

第 13 章 精算表	p.27
問題 42 売上原価の算定	問題 43 精算表の作成①
問題 44 精算表の作成②	問題 45 精算表の作成③
問題 46 決算整理後残高試算表	

第 14 章 財務諸表の作成と帳簿の締切り	p.30
問題 47 財務諸表の作成	問題 48 帳簿の締切り

補足 伝票と仕訳日計表	p.31
問題 49 伝票①	問題 50 伝票②
問題 51 仕訳日計表の作成	問題 52 仕訳日計表の推定

問題編

レッスンのあとは
オイラと一緒にトレーニング♪
手と頭をフル回転させて
処理を体でおぼえよう！



～第1章 現金・預金～

問題1 現金過不足

解答解説 p.2

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中からもっとも適切と思われるものを使用すること。

現	金	当座預金	通信費	旅費交通費
雑	損	雑益	受取地代	現金過不足

1. 現金の実際有高が帳簿残高より¥500 不足していた。
2. 上記1の現金不足額¥500の原因は、旅費交通費の記帳漏れと判明した。
3. かねて現金過不足勘定で処理していた現金の不足額¥8,000の原因について調査したところ、地代の受取額¥3,000と交通費の支払額¥9,000の記帳漏れが判明した。なお、残額については原因不明のため、雑損勘定で処理することとした。
4. 決算において、現金過不足勘定の借方残高が¥1,000ある。原因が不明であるため、適切に処理すること。
5. 決算において、現金過不足勘定の貸方残高が¥1,200ある。原因が不明であるため、適切に処理すること。

問題2 当座借越

解答解説 p.3

下記の一連の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中からもっとも適切と思われるものを使用すること。

現	金	普通預金	当座預金	売掛金
買掛	金	借入金	売上	仕入

1. 神奈川商店より商品¥600を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金勘定の残高は¥400であり、当座借越契約（限度額¥500）を結んでいる。
2. 決算日において当座預金は¥200の貸方残高であるため、適切な勘定に振り替える。

問題3 小口現金

解答解説 p.3

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中からもっとも適当と思われるものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	小 口 現 金	通 信 費
旅 費 交 通 費	水 道 光 熱 費	消 耗 品 費	雑 費

1. 会計係が小口係に小口現金の前渡分として、小切手¥1,000 を振り出して渡した。
2. 小口係より、旅費交通費¥300 を支払った旨の報告を受けた。
3. 小口係より、水道光熱費¥500 と雑費¥200 を支払った旨の報告を受けたため、ただちに小切手を振り出して補給した。

～第2章 商品売買～

問題4 商品の仕入れ（分記法）

解答解説 p.4

下記の取引について、分記法により仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中からもっとも適当と思われるものを使用すること。

現 金	売 掛 金	商 品	立 替 金
買 掛 金	売 上	商 品 売 買 益	仕 入

商品¥30,000 を仕入れ、代金は掛けとした。

問題5 商品の売上げ（分記法）

解答解説 p.4

下記の取引について、分記法により仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中からもっとも適当と思われるものを使用すること。

現 金	売 掛 金	商 品	立 替 金
買 掛 金	売 上	商 品 売 買 益	仕 入

先日¥30,000 で仕入れた商品を¥50,000 で売り上げ、代金は掛けとした。

解答解説編

間違ってしまったところや
不安なところは
必ずテキストに戻って
再確認してね♪



問題1 現金過不足

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金過不足	500	現金	500
2	旅費交通費	500	現金過不足	500
3	旅費交通費	9,000	現金過不足	8,000
	雑損	2,000	受取地代	3,000
4	雑損	1,000	現金過不足	1,000
5	現金過不足	1,200	雑益	1,200

解説

1. 現金の**実際有高**に帳簿残高を合わせる処理をします。**実際有高の方が少ない**ため、現金を貸方に記入することにより帳簿残高を減少させます。また、**相手勘定（借方）は現金過不足**で処理します。
2. **現金過不足の原因が判明**したら、現金過不足勘定からその原因を示す**適切な勘定科目に振り替**えます。
3. 本問では現金過不足が生じた際、次のように仕訳しています。
 (借) 現金過不足 8,000 (貸) 現金 8,000
 したがって、原因が判明したときには反対側、すなわち貸方に現金過不足を記入します。
 なお、**原因不明な分**については、**雑損または雑益**で処理します。
4. **現金過不足勘定の残高が借方に残っている**ため、**現金過不足**を貸方に記入し、**雑損**を借方に記入します。
 なお、「現金過不足勘定の残高が借方に残っている」というのは、現金の**実際有高**が帳簿残高より少ないことを意味します。
5. **現金過不足勘定の残高が貸方に残っている**ため、**現金過不足**を借方に記入し、**雑益**を貸方に記入します。
 なお、「現金過不足勘定の残高が貸方に残っている」というのは、現金の**実際有高**が帳簿残高より多いことを意味します。

問題2 当座借越

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕入	600	当座預金	600
2	当座預金	200	借入金	200

解説

1. 当座預金の残高¥400 を超える¥600 の小切手を振り出していますが、処理は通常の小切手の振出しの場合と同じです。すなわち**当座預金の減少**として処理します。
2. 決算日において当座預金が貸方残高のときは、当座預金を**当座借越または借入金**に振り替えます。本問では勘定科目の一覧に借入金がある（当座借越がない）ため、借入金に振り替えます。

問題3 小口現金

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	小口現金	1,000	当座預金	1,000
2	旅費交通費	300	小口現金	300
3	水道光熱費	500	当座預金	700
	雑費	200		

解説

1. 小切手を振り出すことにより**当座預金が減少**するため、**当座預金を貸方**に記入します。また、**小口現金が増加**するため、**小口現金を借方**に記入します。
2. 小口係より**支払いの報告を受けたときに仕訳**をします。小口係の支払いにより**小口現金が減少**するため、**小口現金を貸方**に記入します。また、**旅費交通費の支払い**であるため、**旅費交通費を借方**に記入します。
3. 支払報告と補給を同時に行う場合、①報告時と②補給時の仕訳をまとめた形で解答します。

①	水道光熱費	500	小口現金	700
	雑費	200		
②	小口現金	700	当座預金	700

簿記3級

問題集

答案用紙

問題1 現金過不足

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				

問題2 当座借越

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				

問題3 小口現金

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				
3				